

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-197628

(P2012-197628A)

(43) 公開日 平成24年10月18日(2012.10.18)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
E 0 6 B 9/44 (2006.01)	E 0 6 B 9/44	2 E 0 4 2
E 0 6 B 9/60 (2006.01)	E 0 6 B 9/60	
E 0 6 B 9/17 (2006.01)	E 0 6 B 9/17 U	

審査請求 未請求 請求項の数 15 O L (全 16 頁)

(21) 出願番号	特願2011-63198 (P2011-63198)	(71) 出願人	000250672
(22) 出願日	平成23年3月22日 (2011. 3. 22)		立川ブラインド工業株式会社
			東京都港区三田3丁目1番12号
		(74) 代理人	100068755
			弁理士 恩田 博宣
		(74) 代理人	100105957
			弁理士 恩田 誠
		(72) 発明者	後藤 誠一
			東京都港区三田3丁目1番12号 立川ブ
			ラインド工業 株式会社内
		(72) 発明者	岡村 正
			東京都港区三田3丁目1番12号 立川ブ
			ラインド工業 株式会社内
最終頁に続く			

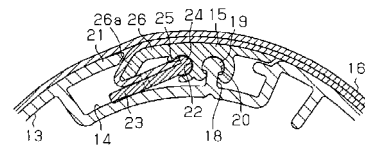
(54) 【発明の名称】 ロールブラインドの生地取付装置及びロールブラインドの生地取付方法

(57) 【要約】

【課題】 通常使用時はスクリーンを巻取軸に確実に固定し、且つ室内側に露出される生地面を容易に変更可能としたロールブラインドの生地取付装置を提供する。

【解決手段】 スクリーンの生地を巻取軸に生地押えを介して取着し、巻取軸にスクリーンを巻き取りあるいは巻き戻してスクリーンを昇降するロールブラインドにおいて、巻取軸と生地押え15に、巻取軸13から垂下される生地16の裏表を切り替えて保持する切り替え手段を備えた。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

スクリーンの生地を巻取軸に生地押えを介して取着し、前記巻取軸に前記スクリーンを巻き取りあるいは巻き戻してスクリーンを昇降するロールブラインドにおいて、

前記巻取軸と前記生地押えに、前記巻取軸から垂下される前記生地の裏表を切り替えて保持する切り替え手段を備えたことを特徴とするロールブラインドの生地取付装置。

【請求項 2】

前記切り替え手段は、

前記生地の上端に取着した生地取付部材と、

前記巻取軸と前記生地押えの少なくともいずれかに設けられ、前記生地取付部材の裏表を切り替えて仮止め可能とする仮止め手段とを備えたことを特徴とする請求項 1 記載のロールブラインドの生地取付装置。

10

【請求項 3】

前記仮止め手段は、

前記生地押えに設けられ、前記生地取付部材の端部を嵌合可能とした嵌合溝としたことを特徴とする請求項 2 記載のロールブラインドの生地取付装置。

【請求項 4】

前記仮止め手段は、

前記巻取軸に設けられ、前記生地押えを取着可能とした取付凹部に前記生地取付部材を仮止めしたことを特徴とする請求項 2 記載のロールブラインドの生地取付装置。

20

【請求項 5】

前記取付凹部に係止突条を設け、前記生地押えの基端側には前記係止突条に嵌合可能とした嵌合溝を設けるとともに前記生地押えの先端部を前記取付凹部に設けた底部の下方に挿入して、前記生地取付部材を、前記底部と、前記取付凹部の底面と、前記係止突条とで囲まれる空間内に保持したことを特徴とする請求項 4 記載のロールブラインドの生地取付装置。

【請求項 6】

前記生地の両端部に一对の前記生地押えを取着し、前記生地の各端部を互いに逆方向に折り返して前記各生地押えに取着し、前記生地を上下方向にひっくり返して、前記生地押えを前記巻取軸及びウェイトバーに対し入れ替えて取着可能とした切り替え手段を備えたことを特徴とする請求項 1 記載のロールブラインドの生地取付装置。

30

【請求項 7】

前記生地の両端部に一对の前記生地押えを取着し、前記生地の各端部を互いに逆方向に折り返して前記各生地押えに取着し、前記生地を前記巻取軸の周面を周回させて、前記生地押えを前記巻取軸及びウェイトバーに対し入れ替えて取着可能とした切り替え手段を備えたことを特徴とする請求項 1 記載のロールブラインドの生地取付装置。

【請求項 8】

前記切り替え手段は、

前記巻取軸に設けられ、断面線対称状に形成された二つの取付凹部と、

前記生地の上端部に取着され、可撓性を備えた合成樹脂で前記取付凹部に裏表を切り替えて保持可能とした板状の生地押えとを備えたことを特徴とする請求項 1 記載のロールブラインドの生地取付装置。

40

【請求項 9】

前記巻取軸の少なくとも一端に、前記取付凹部を前記巻取軸の周方向に連通させる連通部を備えたことを特徴とする請求項 8 記載のロールブラインドの生地取付装置。

【請求項 10】

前記生地押えに、前記巻取軸の外周面との間の段差を縮小する変形部を設けたことを特徴とする請求項 4 記載のロールブラインドの生地取付装置。

【請求項 11】

巻取軸の外周面に設けられた取付凹部と、

50

前記取付凹部に設けられた係止突条と、
前記係止突条の先端部に設けた第一の膨径部と、
前記取付凹部の端部に設けられる底部と、
生地の上端部を取付け可能とした板状の生地取付部材と、
前記生地取付部材の端部に設けられ、前記第一の膨径部の下方に係合する第二の膨径部と、
前記生地取付部材に設けられ、前記生地の端部を当接させて位置決め可能とした保持部と、
前記生地を取付けた前記生地取付部材を、前記底部と取付凹部の底面と前記係止突条及び前記膨径部とで囲まれる空間内に仮止めすることと、
前記第一の膨径部に嵌合して、前記生地取付部材を前記取付凹部に保持する生地押えと
を備えたことを特徴とするロールブラインドの生地取付装置。

【請求項 1 2】

生地の上端に装着した生地取付部材を、巻取軸の外周面上に設けた取付凹部に裏表を入れ替えて仮止めし、前記取付凹部に生地押えを固定して前記巻取軸から吊下支持される前記生地の裏表を切り替えることを特徴とするロールブラインドの生地取付方法。

【請求項 1 3】

生地の上端に装着した生地押えを巻取軸に装着するロールブラインドの生地取付方法において、

前記巻取軸の外周面上に断面線対称状に隣接して設けられた二つの取付凹部の一方に挿入された前記生地押えを、前記巻取軸の一方へ引き出すとともに、該生地押えを上下方向に折り返して他方の取付凹部に挿入することを特徴とするロールブラインドの生地取付方法。

【請求項 1 4】

生地を上下方向にひっくり返して、前記生地の両端に装着された生地押えの一方を巻取軸に装着し、他方をウェイトバーに装着して、前記生地の裏表を切り替えることを特徴とするロールブラインドの生地取付方法。

【請求項 1 5】

生地を巻取軸の周面に沿って周回させて上下方向に入れ替え、前記生地の両端に装着された生地押えの一方を巻取軸に装着し、他方をウェイトバーに装着して、前記生地の裏表を切り替えることを特徴とするロールブラインドの生地取付方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、ロールブラインドのスクリーンを形成する生地を巻取軸に装着する生地取付装置に関するものである。

【背景技術】

【0002】

ロールブラインドは、取付面に回転可能に支持された巻取軸からスクリーンが吊下支持され、巻取軸の回転操作によりスクリーンを昇降して採光量を適宜に調節可能としている。

【0003】

このようなロールブラインドでは、スクリーンを構成する生地の上端に生地押えが縫製等により装着され、その生地押えが巻取軸の外周面に設けられた取付凹部に装着されている。

【0004】

図 2 3 は、ロールブラインドの従来の生地取付装置の一例を示す。スクリーンを構成する生地 1 の上端に合成樹脂で成形された生地押え 2 が装着され、その生地押え 2 が巻取軸 3 の取付凹部 4 に掛止めされている。

10

20

30

40

50

【0005】

そして、巻取軸3が回転されると、スクリーンが巻取軸3に巻き取られ、あるいは巻取軸3から巻戻されてスクリーンが昇降される。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】特開2000-64747号公報

【特許文献2】実公平5-26327号公報

【特許文献3】特開平3-221693号公報

【特許文献4】特開2002-149092号公報

10

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

上記のようなロールブラインドでは、スクリーンを下降させたとき、室内には生地を表面あるいは裏面のいずれかが露出され、いずれの生地面が露出されるかは生地1の上端を生地押え2に取着する際に決定される。

【0008】

従って、上記のように巻取軸3に対する生地押え2の嵌合方向が一方向に限定され、且つ生地押えに生地を縫着等により接合していると、室内に露出される生地面を変更することはできない。また、できるとしても、縫製部分を外し、生地1を表裏逆転させて生地押え2に縫製し直す必要があり、きわめて煩雑な作業が必要となるという問題点がある。

20

【0009】

特許文献1に開示されたロールブラインドのスクリーン取付構造では、支持部材の底面にスクリーンの抜け止め用の端部材に係合して収納する嵌合部が形成されている。

このような構成では、スクリーンの取り付け時に端部材が嵌合部に保持されないので、端部材を指先で嵌合部に保持しながら支持部材1を取付溝内に挿入する。

【0010】

そして、最後は端部材が嵌合部に保持されているか否かを確認できないまま、支持部材を取付溝に取着する必要がある、端部材が嵌合部に保持されていない状態では支持部材を取付溝に確実に取着することができない。従って、取付作業が煩雑となるという問題点がある。

30

【0011】

特許文献2には、係止片を嵌合突起の両側に設けることにより、巻取軸に対し支持部材の取付方向を変更可能としたロールブラインドが開示されている。しかし、スクリーンの室内側に露出される面を変更するための構成は開示されていない。

【0012】

特許文献3、4には、スクリーンの両端部に膨大部を設け、巻取りパイプに対しスクリーンをスライド可能とし、どちらか一方の膨大部を挿通部に引っ掛けることにより、スクリーンの表裏を変更して支持可能とした構造が開示されている。しかし、引っ掛けた膨大部が巻取りパイプに対し固定されていないので、通常使用時に巻取りパイプ内から飛び出してしまふおそれがある。

40

【0013】

この発明の目的は、通常使用時はスクリーンを巻取軸に確実に固定し、且つ室内側に露出される生地面を容易に変更可能としたロールブラインドの生地取付装置を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0014】

請求項1では、スクリーンの生地を巻取軸に生地押えを介して取着し、前記巻取軸に前記スクリーンを巻き取りあるいは巻き戻してスクリーンを昇降するロールブラインドにおいて、前記巻取軸と前記生地押えに、前記巻取軸から垂下される前記生地の裏表を切り替

50

えて保持する切り替え手段を備えた。

【0015】

請求項2では、前記切り替え手段は、前記生地の上端に取着した生地取付部材と、前記巻取軸と前記生地押えの少なくともいずれかに設けられ、前記生地取付部材の裏表を切り替えて仮止め可能とする仮止め手段とを備えた。

【0016】

請求項3では、前記仮止め手段は、前記生地押えに設けられ、前記生地取付部材の端部を嵌合可能とした嵌合溝とした。

請求項4では、前記仮止め手段は、前記巻取軸に設けられ、前記生地押えを取着可能とした取付凹部に前記生地取付部材を仮止めた。

10

【0017】

請求項5では、前記取付凹部に係止突条を設け、前記生地押えの基端側には前記係止突条に嵌合可能とした嵌合溝を設けるとともに前記生地押えの先端部を前記取付凹部に設けた底部の下方に挿入して、前記生地取付部材を、前記底部と、前記取付凹部の底面と、前記係止突条とで囲まれる空間内に保持した。

【0018】

請求項6では、前記生地の両端部に一对の前記生地押えを取着し、前記生地の各端部を互いに逆方向に折り返して前記各生地押えに取着し、前記生地を上下方向にひっくり返して、前記生地押えを前記巻取軸及びウェイトバーに対し入れ替えて取着可能とした切り替え手段を備えた。

20

【0019】

請求項7では、前記生地の両端部に一对の前記生地押えを取着し、前記生地の各端部を互いに逆方向に折り返して前記各生地押えに取着し、前記生地を前記巻取軸の周面を周回させて、前記生地押えを前記巻取軸及びウェイトバーに対し入れ替えて取着可能とした切り替え手段を備えた。

【0020】

請求項8では、前記切り替え手段は、前記巻取軸に設けられ、断面線対称状に形成された二つの取付凹部と、前記生地の上端部に取着され、可撓性を備えた合成樹脂で前記取付凹部に裏表を切り替えて保持可能とした板状の生地押えとを備えた。

【0021】

30

請求項9では、前記巻取軸の少なくとも一端に、前記取付凹部を前記巻取軸の周方向に連通させる連通部を備えた。

請求項10では、前記生地押えに、前記巻取軸の外周面との間の段差を縮小する変形部を設けた。

【0022】

請求項11では、巻取軸の外周面に設けられた取付凹部と、前記取付凹部に設けられた係止突条と、前記係止突条の先端部に設けた第一の膨径部と、前記取付凹部の端部に設けられる底部と、生地の上端部を取付け可能とした板状の生地取付部材と、前記生地取付部材の端部に設けられ、前記第一の膨径部の下方に係合する第二の膨径部と、前記生地取付部材に設けられ、前記生地の端部を当接させて位置決め可能とした保持部と、前記生地を取付けた前記生地取付部材を、前記底部と取付凹部の底面と前記係止突条及び前記膨径部とで囲まれる空間内に仮止めすることと、前記第一の膨径部に嵌合して、前記生地取付部材を前記取付凹部内に保持する生地押えとを備えた。

40

【0023】

請求項12では、生地の上端に取着した生地取付部材を、巻取軸の外周面上に設けた取付凹部に裏表を入れ替えて仮止めし、前記取付凹部に生地押えを固定して前記巻取軸から吊下支持される前記生地の裏表を切り替える。

【0024】

請求項13では、生地の上端に取着した生地押えを巻取軸に取着するロールブラインドの生地取付方法において、前記巻取軸の外周面上に断面線対称状に隣接して設けられた二

50

つの取付凹部の一方に挿入された前記生地押えを、前記巻取軸の一方へ引き出すとともに、該生地押えを上下方向に折り返して他方の取付凹部に挿入する。

【００２５】

請求項１４では、生地を上下方向にひっくり返して、前記生地の両端に取着された生地押えの一方を巻取軸に取着し、他方をウェイトバーに取着して、前記生地の裏表を切り替える。

【００２６】

請求項１５では、生地を巻取軸の周面に沿って周回させて上下方向に入れ替え、前記生地の両端に取着された生地押えの一方を巻取軸に取着し、他方をウェイトバーに取着して、前記生地の裏表を切り替える。

【発明の効果】

【００２７】

本発明によれば、通常使用時はスクリーンを巻取軸に確実に固定し、且つ室内側に露出される生地面を容易に変更可能としたロールブラインドの生地取付装置を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【００２８】

【図１】第一の実施形態のロールブラインドを示す側面図である。

【図２】第一の実施形態の生地取付装置を示す断面図である。

【図３】第一の実施形態のロールブラインドを示す説明図である。

【図４】第一の実施形態の生地取付装置を示す断面図である。

【図５】第一の実施形態の生地取付過程を示す断面図である。

【図６】第一の実施形態の仮止め状態を示す断面図である。

【図７】第一の実施形態の生地取付過程を示す断面図である。

【図８】生地の裏表を入れ替えた場合の仮止め状態を示す断面図である。

【図９】第二の実施形態のロールブラインドを示す側面図である。

【図１０】第二の実施形態の生地取付装置を示す断面図である。

【図１１】第二の実施形態のロールブラインドを示す側面図である。

【図１２】第二の実施形態の生地取付装置を示す断面図である。

【図１３】第二の実施形態の仮止め状態を示す断面図である。

【図１４】第二の実施形態の生地取付過程を示す断面図である。

【図１５】生地の裏表を入れ替えた場合の仮止め状態を示す断面図である。

【図１６】第二の実施形態の生地取付過程を示す断面図である。

【図１７】（ａ）～（ｄ）は第三の実施形態の生地取付過程を示す説明図である。

【図１８】（ａ）～（ｄ）は第四の実施形態の生地取付過程を示す説明図である。

【図１９】（ａ）（ｂ）は第五の実施形態を示す側面図である。

【図２０】第五の実施形態の生地取付過程を示す斜視図である。

【図２１】第六の実施形態を示す断面図である。

【図２２】第六の実施形態を示す断面図である。

【図２３】従来例を示す側面図である。

【発明を実施するための形態】

【００２９】

（第一の実施形態）

以下、この発明を具体化した第一の実施形態を図１～図８に従って説明する。図１に示すロールブラインドは、取付面に固定されるフレーム１１の両端に一对の支持ブラケット１２が取着され、その支持ブラケット１２間に巻取軸１３が回転可能に支持されている。

【００３０】

前記巻取軸１３は、アルミ押し出し型材で円筒状に形成され、その外周面に設けられた取付凹部１４に生地押え１５を介してスクリーンを構成する生地１６の上端部が保持されて、生地１６が巻取軸１３から垂下されている。

【0031】

前記生地16の下端にはウェイトバー17が装着されている。そして、操作装置（図示しない）の操作により巻取軸13が生地16の巻取り方向に回転されると、生地16が巻取軸13に巻き取られて生地16及びウェイトバー17が引き上げられる。また、巻取軸13が生地16の巻き戻し方向に回転されると、生地16及びウェイトバー17が下降する。このような生地16の昇降操作により採光量を適宜に調節可能となっている。

【0032】

図2に示すように、前記取付凹部14の底面から係止突条18が巻取軸13の径方向に突出され、その係止突条18の先端部に膨径部19が形成されている。前記生地押え15は、弾性を有する合成樹脂で前記巻取軸13とほぼ同様な長さの板状に形成され、その断面基端側に前記膨径部19を弾性的に嵌合可能とした第一の嵌合溝20が形成されている。

10

【0033】

前記取付凹部14は、その一侧に巻取軸13の外周面を延長するように底部21が形成されている。前記生地押え15の表面は、巻取軸13の外周面に沿う円弧面に形成され、生地押え15の断面先端側に延びる弾性片26の先端部26aは、前記底部21の下方に挿入可能となるように屈曲されている。

【0034】

そして、生地押え15の断面先端部を底部21の下方に挿入した状態で、第一の嵌合溝20を係止突条18の膨径部19に嵌合すると、生地押え15の表面は巻取軸13の外周面の延長線上に位置する。

20

【0035】

前記生地押え15には、第一の嵌合溝20に隣接して生地押え15の断面先端側に向かって開口する第二の嵌合溝22が形成されている。

前記第二の嵌合溝22には生地取付部材23の一端部を嵌合可能となっている。前記生地取付部材23は、合成樹脂で板状に成形され、その断面基端側に前記第二の嵌合溝22に弾性的に嵌合可能とした膨径部24が形成されている。

【0036】

前記生地取付部材23の表裏面の一方の面において、前記膨径部24には前記生地16の端部を当接させて位置決め可能とした保持部25が形成されている。そして、前記生地16はその端部を保持部25に当接させた状態で生地取付部材23に縫製により装着されている。

30

【0037】

次に、上記のように構成されたロールブラインドの生地取付装置の作用を説明する。上記のような生地押え15及び生地取付部材23を使用して生地16の上端部を巻取軸13に装着するには、図5に示すように、まず生地取付部材23に生地16の上端部を縫着する。

【0038】

次いで、図6に示すように、例えば縫着した生地16が生地取付部材23の上方に位置する状態で膨径部24を第二の嵌合溝22に嵌合して、生地取付部材23を生地押え15に仮止めする。

40

【0039】

次いで、生地16を生地押え15の表面側に案内した状態で、生地押え15の弾性片26及び生地取付部材23の先端部を巻取軸13の底部21の下方に挿入し、生地押え15の第一の嵌合溝20を係止突条18の膨径部19に嵌合する。

【0040】

すると、図2に示すように、生地16は弾性片26の先端部26aと底部21の先端との間を経て生地押え15の表面に案内され、生地16を巻取軸13に巻き取り可能となる。この場合には、図1に示すように、例えば室内側に生地16の裏面Bが露出され、室外側に表面Aが露出される。

50

【0041】

また、巻取軸 13 に生地 16 が巻き取られると、生地 16 の巻圧により生地押え 15 の弾性片 26 が巻取軸 13 の径方向に撓み、弾性片 26 と底部 21 との間の段差がなくなる。

【0042】

室内側に生地 16 の表面 A が露出されるようにする場合には、図 7 に示すように、縫着した生地 16 が生地取付部材 23 の下方に位置する状態で、図 8 に示すように、膨径部 24 を第二の嵌合溝 22 に嵌合して、生地取付部材 23 を生地押え 15 に仮止めする。

【0043】

次いで、生地 16 を生地押え 15 の表面側に案内した状態で、生地押え 15 及び生地取付部材 23 の先端部を巻取軸 13 の底部 21 の下方に挿入し、生地押え 15 の第一の嵌合溝 20 を係止突条 18 の膨径部 19 に嵌合する。

【0044】

すると、図 4 に示すように、生地 16 を巻取軸 13 に巻き取り可能となり、図 3 に示すように、室内側に生地 16 の表面 A が露出され、室外側に裏面 B が露出される。

上記のように構成されたロールブラインドの生地取付装置では、次に示す効果を得ることができる。

(1) 生地 16 を取着した生地取付部材 23 を、生地押え 15 に裏表方向を入れ替えて取着することにより、巻取軸 13 から垂下される生地 16 の裏表を切り替えることができる。

(2) 巻取軸 13 に対する生地 16 の巻き取り方向を変えることなく、巻取軸 13 から垂下される生地 16 の裏表を切り替えることができる。

(3) 生地取付部材 23 の膨径部 24 を生地押え 15 の第二の嵌合溝 22 に弾性的に嵌合することにより、生地取付部材 23 を生地押え 15 に容易に取着することができる。

(4) 生地押え 15 及び生地取付部材 23 の先端部を底部 21 の下方に挿入しながら、生地押え 15 の第一の嵌合溝 20 を取付凹部 14 の係止突条 18 の膨径部 19 に嵌合することにより、生地押え 15 及び生地取付部材 23 を巻取軸 13 に容易に取着することができる。

(第二の実施形態)

図 9～図 16 は、第二の実施形態を示す。この実施形態は、前記第一の実施形態とは異なる生地押え 31 を使用して、生地 16 を巻取軸 13 に取着する生地取付装置を示す。生地押え 31 以外の構成は、第一の実施形態と同様である。第一の実施形態と同一構成部分は、同一符号を付して説明する。

【0045】

図 10 に示すように、弾性を有する合成樹脂で成形された生地押え 31 は、断面基端側に嵌合溝 32 が形成され、巻取軸 13 の係止突条 18 の膨径部 19 に嵌合可能となっている。生地押え 31 の断面先端側は、巻取軸 13 の底部 21 の下方に挿入可能となっている。そして、前記生地取付部材 23 を生地押え 31 と取付凹部 14 の底面との間に保持可能となっている。

【0046】

このような生地押え 31 及び生地取付部材 23 の作用を説明すると、生地 16 の上端部を巻取軸 13 に取着するには、まず生地取付部材 23 に生地 16 の上端部を縫着する。

次いで、図 13 に示すように、例えば縫着した生地 16 を生地取付部材 23 の上方に位置させ、生地取付部材 23 の膨径部 24 を係止突条 18 側に向けて取付凹部 14 内に挿入する。すると、生地取付部材 23 は底部 21 と、取付凹部 14 の底面と、係止突条 18 及び膨径部 19 とで囲まれる空間内に仮止めされ、生地取付部材 23 が巻取軸 13 に保持された状態となる。このとき、生地 16 は底部 21 から巻取軸 13 の外周面に沿って垂下させておく。

【0047】

次いで、図 14 に示すように、生地押え 31 の断面先端側を取付凹部 14 内に挿入し、

嵌合溝 32 に係止突条 18 の膨径部 19 を嵌合すると、図 10 に示すように、生地 16 を巻取軸 13 に巻き取り可能となる。この場合には、図 9 に示すように、例えば室内側に生地 16 の裏面 B が露出され、室外側に表面 A が露出される。

【0048】

室内側に生地 16 の表面 A が露出されるようにする場合には、図 15 に示すように、縫着した生地 16 が生地取付部材 23 の下方に位置する状態で生地取付部材 23 を取付凹部 14 内に挿入する。すると、生地取付部材 23 は底部 21 と、取付凹部 14 の底面と、係止突条 18 及び膨径部 19 とで囲まれる空間内に仮止めされ、生地取付部材 23 が巻取軸 13 に保持された状態となる。

【0049】

次いで、図 16 に示すように、生地押え 31 の断面先端側を取付凹部 14 内に挿入し、嵌合溝 32 に係止突条 18 の膨径部 19 を嵌合すると、図 12 に示すように、生地 16 を巻取軸 13 に巻き取り可能となる。この場合には、図 11 に示すように、室内側に生地 16 の表面 A が露出され、室外側に裏面 B が露出される。

【0050】

上記のように構成されたロールブラインドの生地取付装置では、次に示す効果を得ることができる。

(1) 生地 16 を取着した生地取付部材 23 を、取付凹部 14 内で裏表方向に入れ替えて生地押え 31 で保持することにより、巻取軸 13 から垂下される生地 16 の裏表を切り替えることができる。

(2) 巻取軸 13 に対する生地 16 の巻き取り方向を変えことなく、巻取軸 13 から垂下される生地 16 の裏表を切り替えることができる。

(3) 生地取付部材 23 を取付凹部 14 内に挿入した状態で、生地押え 31 の断面先端側を底部 21 の下方に挿入して、嵌合溝 32 を取付凹部 14 の係止突条 18 の膨径部 19 に嵌合することにより、生地押え 31 及び生地取付部材 23 を巻取軸 13 に容易に取着することができる。

(第三の実施形態)

図 17 は、第三の実施形態を示す。この実施形態は、生地 16 の上端及び下端を共通の生地押え 35a, 35b で巻取軸 13 とウェイトバー 36 に取着する構成としたものである。

【0051】

図 17 (a) (b) に示すように、生地 16 の上端及び下端には共通の生地押え 35a, 35b が取着されている。そして、生地押え 35a の先端部には生地 16 の裏面 B が内側となるように折り返して取着され、生地押え 35b の先端部には生地 16 の表面 A が内側となるように折り返して取着されている。

【0052】

巻取軸 13 には第一の実施形態と同様な取付凹部 14 及び係止突条 18 が形成され、生地押え 35a, 35b のいずれかを取着可能となっている。ウェイトバー 36 には、巻取軸 13 の取付凹部 14 と同様な構成で、生地押え 35a, 35b のいずれかを取着する取付凹部 37 と係止突条 38 が形成されている。

【0053】

図 17 (a) に示すように、生地押え 35a を巻取軸 13 に取着し、生地押え 35b をウェイトバー 36 に取着したとき、室内側には生地 16 の裏面 B が露出され、室外側には生地 16 の表面 A が露出されている。

【0054】

この状態から生地 16 の裏表を入れ替える場合には、図 17 (b) に示すように、生地押え 35a, 35b を巻取軸 13 及びウェイトバー 36 から取り外し、同図 (c) に示すように、生地 16 を上下方向にひっくり返す。

【0055】

そして、図 17 (d) に示すように、生地押え 35b を巻取軸 13 の取付凹部 14 に取

10

20

30

40

50

着し、生地押え 3 5 a をウェイトバー 3 6 に取付する。

すると、室内側には生地 1 6 の表面 A が露出され、室外側には生地 1 6 の裏面 B が露出される。

【0056】

上記のように構成されたロールブラインドの生地取付装置では、次に示す効果を得ることができる。

(1) 生地 1 6 を上下方向にひっくり返して、巻取軸 1 3 とウェイトバー 3 6 に取付される生地押え 3 5 a, 3 5 b を入れ替えることにより、巻取軸 1 3 から垂下される生地 1 6 の裏表を容易に切り替えることができる。

(2) 巻取軸 1 3 に対する生地 1 6 の巻き取り方向を変えことなく、巻取軸 1 3 から垂下される生地 1 6 の裏表を切り替えることができる。

(第四の実施形態)

図 1 8 は、第四の実施形態を示す。前記第三の実施形態では、生地 1 6 を上下方向にひっくり返して裏表を切り替える構成としたが、この実施形態では、生地 1 6 を巻取軸 1 3 から逆方向に吊下支持することにより、生地 1 6 の裏表を切り替えるようにしたものである。第三の実施形態と同一構成部分は、同一符号を付して説明する。

【0057】

図 1 8 (a) に示すロールブラインドの巻取軸 1 3、生地押え 3 5 a, 3 5 b、ウェイトバー 3 6 は、図 1 7 (a) に示す構成と同様である。

前記巻取軸 1 3 はフレーム 6 1 の両端に取付された支持ブラケット 6 2 間に回転可能に支持されている。そして、一方の支持ブラケット 6 2 に回転可能に支持されたプーリー 6 3 に無端状のボールチェーン 6 4 が掛装され、そのボールチェーン 6 4 を矢印 C 方向に引くと、生地 1 6 が巻取軸 1 3 に巻き取られて、ウェイトバー 3 6 が引き上げられる。この状態では、生地 1 6 の表面 A が室外側、裏面 B が室内側とする。

【0058】

この状態から生地 1 6 の裏表を切り替える場合は、図 1 8 (b) に示すように、生地押え 3 5 a を巻取軸 1 3 から取り外すとともに、生地押え 3 5 b をウェイトバー 3 6 から取り外し、巻取軸 1 3 の周面を周回させながら生地押え 3 5 a を下方へ引いて、生地押え 3 5 b を巻取軸 1 3 近傍まで引き上げる。

【0059】

次いで、図 1 8 (c) に示すように、生地押え 3 5 b を巻取軸 1 3 に取付し、生地押え 3 5 a をウェイトバー 3 6 に取付すると、図 1 8 (d) に示すように、生地 1 6 の表面 A が室内側となり、裏面 B が室外側となる。この状態では、ボールチェーン 6 4 を矢印 C 方向に引くと、生地 1 6 が巻取軸 1 3 から巻き戻されてウェイトバー 3 6 が下降するため、昇降操作時のボールチェーン 6 4 の操作方向が図 1 8 (a) に示す状態とは逆方向となる。

【0060】

上記のように構成されたロールブラインドの生地取付装置では、次に示す効果を得ることができる。

(1) 巻取軸 1 3 とウェイトバー 3 6 に取付される生地押え 3 5 a, 3 5 b を入れ替えることにより、巻取軸 1 3 から垂下される生地 1 6 の裏表を容易に切り替えることができる。

(2) 巻取軸 1 3 を支持ブラケット 6 2 から取り外すことなく、生地 1 6 の裏表を切り替えることができる。

(第五の実施形態)

図 1 9 及び図 2 0 は、第五の実施形態を示す。図 1 9 に示すように、巻取軸 4 1 には取付凹部 4 2 a, 4 2 b が形成されている。取付凹部 4 2 a, 4 2 b は、断面 T 字状の係止突条 4 3 を境界として断面線対称状に形成されている。

【0061】

前記巻取軸 4 1 の両端部では、前記係止突条 4 3 は設けられておらず、前記取付凹部 4

10

20

30

40

50

2 a, 4 2 b が連なる連通部 4 5 が形成されている。前記生地 1 6 の上端部には可撓性を備えた合成樹脂で板状に形成された生地押え 4 4 が取着されている。また、巻取軸 4 1 の両端にはサイドキャップ（図示しない）が嵌着され、そのキャップを介して支持ブラケットに回転可能に支持される。

【0062】

このような生地 1 6 を巻取軸 4 1 に取着するには、生地押え 4 4 を取付凹部 4 2 a に巻取軸 4 1 の側方から挿入して保持し、生地 1 6 を巻取軸 4 1 の外周面に沿って下方へ垂下する。このとき、例えば巻取軸 4 1 に巻き取られる生地 1 6 の外面側が裏面 B、内面側が表面 A となるようにする。

【0063】

一方、生地 1 6 の裏表を切り替えるには、生地押え 4 4 を取付凹部 4 2 a から引き抜き、その生地押え 4 4 を反対側の端部から取付凹部 4 2 b に挿入して保持する。すると、図 1 9 (b) に示すように、生地 1 6 の裏面 B が内面側、表面 A が外面側となるように吊下支持されて、生地 1 6 の裏表が切り替えられる。

【0064】

従って、生地 1 6 の上端を生地押え 4 4 を介して巻取軸 1 3 に容易に取着することができる。とともに、生地 1 6 の裏表を容易に切り替えることができる。

また、生地 1 6 の裏表を切り替える手順として、図 2 0 に示すように、取付凹部 4 2 a に挿入されている生地押え 4 4 を巻取軸 4 1 の一方へ引き抜き、引き抜いた生地押え 4 4 を連通部 4 5 で折り返しながら取付凹部 4 2 b に挿入してもよい。そして、生地押え 4 4 を全て取付凹部 4 2 b に挿入すると、1 9 (b) に示すように、生地 1 6 の裏面 B が内面側、表面 A が外面側となるように吊下支持されて、生地 1 6 の裏表を切り替えることができる。このとき、巻取軸 4 1 のサイドキャップを外すことなく、連通部 4 5 を利用して生地押え 4 4 を折り返すことができるので、巻取軸 4 1 を支持ブラケットから取り外すことなく、生地 1 6 の裏表を切り替えることができる。

（第六の実施形態）

図 2 1 及び図 2 2 は、第六の実施形態を示す。この実施形態は、前記第二の実施形態の生地押えの形状を一部変更したものであり、その他の構成は第二の実施形態と同様である。第二の実施形態と同一構成部分は、同一符号を付して説明する。

【0065】

この実施形態の生地押え 5 1 は、断面先端部を巻取軸 1 3 の底部 2 1 の下方に挿入したとき、底部 2 1 の先端近傍で巻取軸 1 3 の径方向外側に突出する変形部 5 2 が形成されている。

【0066】

生地取付部材 2 3 を使用して生地 1 6 の上端を巻取軸 1 3 に取着する手順は、第二の実施形態と同様である。そして、生地取付部材 2 3 に取着した生地 1 6 の上端が、生地取付部材 2 3 の上方に位置させるか下方に位置させるかを選択することにより、図 2 1 及び図 2 2 に示すように、巻取軸 1 3 から垂下される生地 1 6 の裏表を切り替えることができる。

【0067】

前記巻取軸 1 3 に生地 1 6 を巻き取ると、前記生地押え 5 1 の変形部 5 2 は、生地 1 6 の押圧力により巻取軸 1 3 の径方向内側へ撓む。すると、巻取軸 1 3 の底部 2 1 と生地押え 5 1 の表面との段差が小さくなり、巻取軸 1 3 に巻き取られる生地 1 6 への巻き痕の発生が防止される。

【0068】

上記実施形態は、以下の態様で実施してもよい。

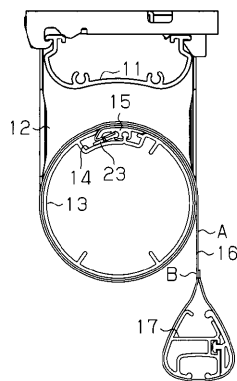
・生地取付部材 2 3 は、生地押え 1 5, 3 1 と取付凹部 1 4 の底面との間で生地 1 6 を保持できれば、合成樹脂以外の材質で形成してもよい。また、板状以外の形状としてもよい。

【符号の説明】

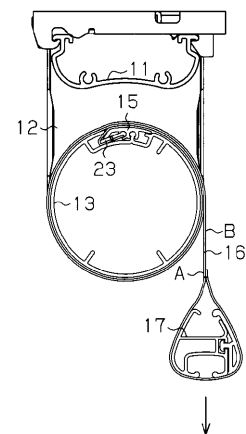
【 0 0 6 9 】

1 3 … 巻取軸、1 4, 3 7, 4 2 a, 4 2 b … 切り替え手段（取付凹部）、1 5, 3 1, 3 5 a, 3 5 b、4 4, 5 1 … 切り替え手段（生地押え）、1 8 … 切り替え手段（仮止め手段、係止突条）、1 9 … 切り替え手段（第一の膨径部）、2 0 … 第一の嵌合溝、2 2 … 切り替え手段（第二の嵌合溝）、2 3 … 切り替え手段（生地取付部材）、2 4 … 切り替え手段（仮止め手段、第二の膨径部）。

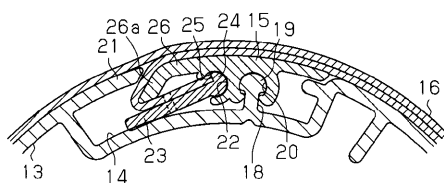
【 図 1 】



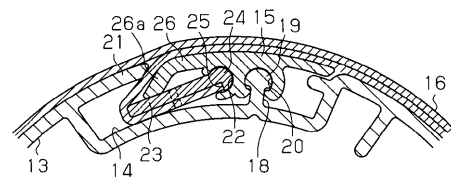
【 図 3 】



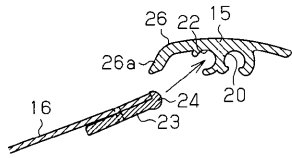
【 図 2 】



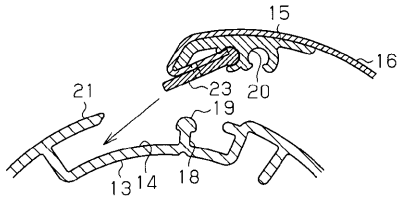
【 図 4 】



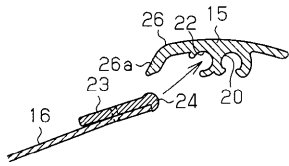
【図 5】



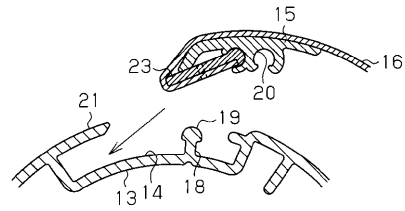
【図 6】



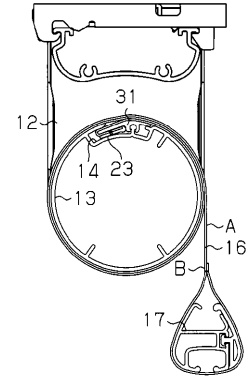
【図 7】



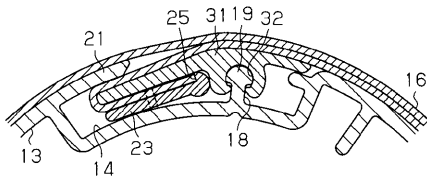
【図 8】



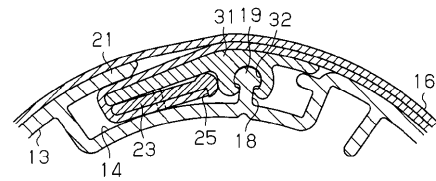
【図 9】



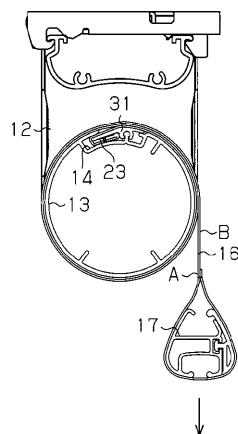
【図 10】



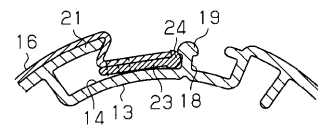
【図 12】



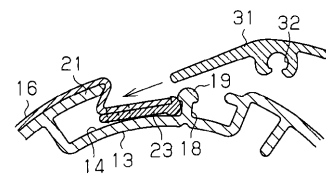
【図 11】



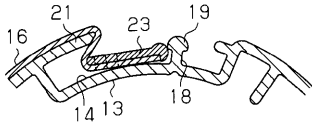
【図 13】



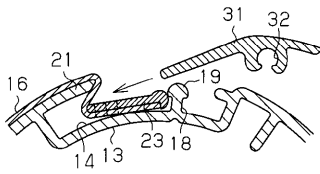
【図 14】



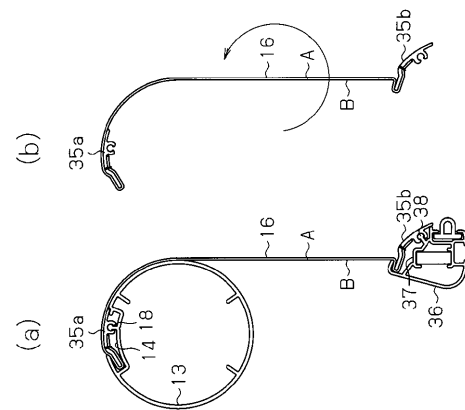
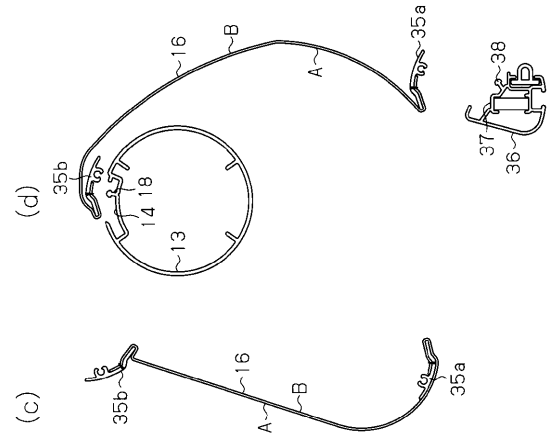
【図 15】



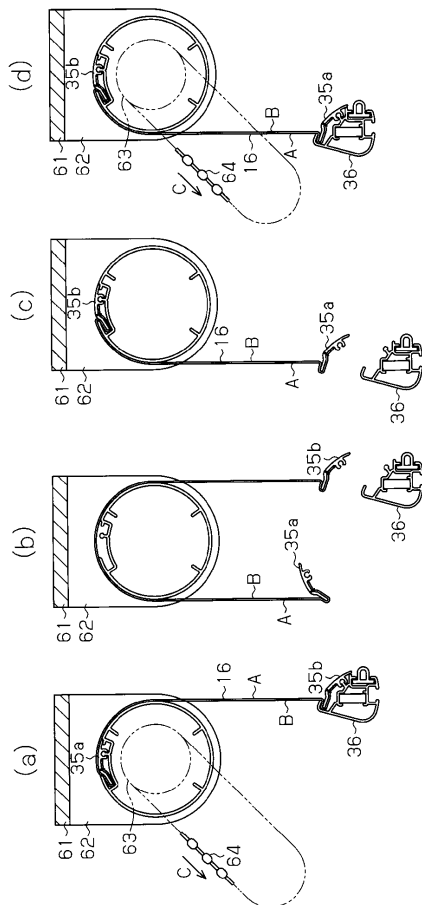
【図 16】



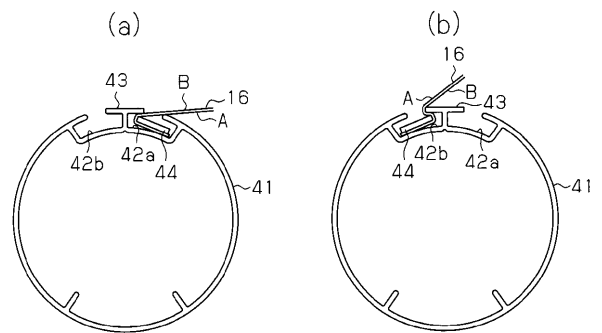
【図 17】



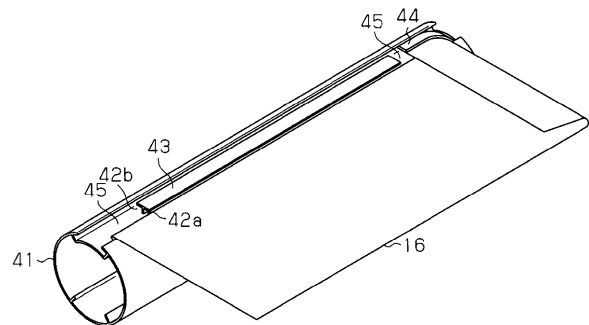
【図 18】



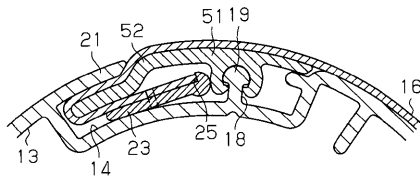
【図 19】



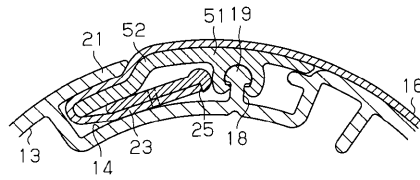
【図 20】



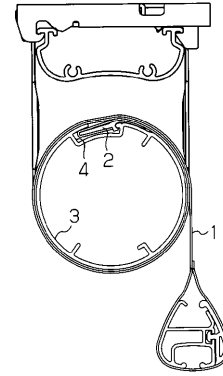
【図 2 1】



【図 2 2】



【図 2 3】



フロントページの続き

(72)発明者 中村 元

東京都港区三田3丁目1番12号 立川ブラインド工業 株式会社内

Fターム(参考) 2E042 AA06 BA01 CA04